医療法人　雄仁会　広報誌

ゆうじんかい

第７号　平成１８年　３月

雄仁会　基本理念

安全・信頼・満足

〇私たちは、患者様に「安全」な医療を提供します。
〇私たちは、患者様に「信頼」される医療を提供します。
〇私たちは、患者様に「満足」される医療を提供します。

2月16日
加藤病院の認知症疾患治療病棟の患者様とあさひが丘保育園園児さんとの交流会が行われました。
元気でかわいらしい仕草に患者様皆さん終始笑顔で過ごされていました

雄仁会　紹介

医療法人　雄仁会　加藤病院は、昭和２６年に設立され、交通の便に恵まれた街の中にありながら、前面には名水豊かな稲葉川が流れ、緑豊かな山々に囲まれ四季折々に味のある風景が広がっている治療環境のもと、地域に根ざした明るく開放的な病院を目指して努力してまいりました。

診療科は心療内科、精神科、内科、皮膚科で、病床数２１２床は精神病棟、老人性痴呆疾患治療病棟からなり、平成８年には介護老人保健施設を併設して、地域の医療・保健・福祉を担う医療法人として幅広く活動を展開しています。

医療法人雄仁会はこれからも２１世紀の精神科病院、介護老人保健施設に求められる使命を全うし、地域から信頼される医療法人として貢献してまいります。

病院機能評価認定を受けて

医療法人　雄仁会
理事長　加藤　一郎

【認定シンボルマーク】

当院では患者様に「安全」な医療を提供し、その結果如何に「信頼」「満足」していただけるかを追求し、あわせて地域の皆様から愛される病院になることを基本理念に取り組んでいます。
なお、当院ではこの際第三者によって評価を受けることは有益と考え、医療機関の機能の品質保証と改善支援を目的とする、財団法人日本医療機能評価機構が実施する「病院機能評価」を昨年3月に受審し、この度、2006年１月23日、病院機能評価の認定審査に合格することができました。
同機構が1997年から実施している病院機能評価事業では、受審を申し込んだ病院に対し、所定の審査項目にもとづき訪問審査の上、評価を行い、一定の水準に達していると認めた場合に、認定証を発行しています。
病院機能評価受審の効果としては、

1) 改善すべき問題点が明確になる
2) 評価を受けるための準備が改善のきっかけとなる
3) 効果的で具体的な改善目標が設定出来る
4) 職員の自覚により院内の改善意欲が向上する
5) 改善に向けて的確な取り組みが可能となる
6) 改善の成果を内外に示して医療への信頼を高める

等の利点がもたらされるとされています。
当院の病院機能評価受審の大きな目的の一つは、基礎づくり、基盤整備にありました。その目的については一定以上の成果が得られたと思っています。病院づくりの中で普通にやっていたら数年かかりそうなことも、病院機能評価受審というゴールを設定することによって一気に進める事ができた事も大きな成果と捉えています。
また現在の病院に求められる一般的な方向性が職員みなに実感できた事も大きな成果でした。
今日病院のあり方として、より患者様の側に立った医療を目指すためには、やはり第三者に評価を定期的にして頂く事が重要と考えています。
病院機能評価の審査を受けるということは、これからの病院としては避けて通れないことであると考えられます。実際、患者様や家族に沿った医療がなされているかどうかを評価する項目が重視されています。
今後も医療の質を高めていくためには、説明・納得・同意のプロセスに重きを置き、患者様を中心とした地域におけるチーム医療を遂行して行くことも重要であると考えます。　今回の受審で加藤病院の基本理念である「安全・信頼・満足」、これを追求実践していくことが機能評価にも耐え得ることであると確信しました。
機能評価のために努力したり協力したそのエネルギーを、これからの病院づくりに活かしていきたいと思っております。

病院機能評価認定を得て

病院機能評価機構に当院が認められたということは、とりもなおさず当病院が地域の患者様のために、開かれた適切な医療を行っていることだと思われます。
私達は、地域の方々のために今後も、たゆまぬ努力を行っていかなくてはならいと実感しています。
副院長　麻生真佐

大変な苦労を経て病院機能評価認定を受けた訳ですが、本当に大変なのはこれからです。
新しく入職される方々は、当然、当院が機能評価に合格した病院であり、加えて皆様がそこで働くスタッフであると言う視線で捉えることでしょう。今までは「よく頑張っている」と誉められていたところを、「できて当然」というふうに思われるようになります。認定を受けたときのレベルを維持することだけでも大変なのに、5年後の更新へ向けさらなるレベルアップが必要となります。考えるだけでも逃げ出したい気分になりますが、お互い励まし合いながらこれからも一緒に頑張って行きましょう
副院長　甲斐清隆

機能評価というマラソンコースを、無我夢中で、ゴール目指して、全員で突っ走って参りました。そして走り終えた後、私達の体の中を心地良い風が吹き抜けていきました。機能評価受審前と後では確実にスタッフ全員の意識に変化がみられました。衛生管理に関しては意識の統一化が図られましたし、作業工程に関しましては、徹底して無駄を省き、合理性と柔軟性を加味し、独自の路線が築けたかと思います。これら一連の事柄を一過性のものとするか否かはこれからの私達の活動如何にかかっているかと思います。「食は命なり」を至上命題として、各部署の方々との連携を密に図れた事も大きな収穫でした。そのような中において、気付いたこと、それはまだまだ底知れぬ可能性を各人が秘めているし、一人ひとりが欠くべからざる人材である、ということです。発展途上の皆様に幸あれ！
診療副部長　藤澤初子

受審前、課題は山積みでしたが、ひとつ解決する度に、皆の目は生き生きとしていました。
今、認定を受けることができ、「この病院で働けて自分は誇らしく思う」というスタッフの言葉、さっそくV5.0の解説書を開くスタッフの姿等に、皆の努力が認められ、本当に感無量の思いです。今後はこの貴重なプロセスを、なによりも患者様や地域のために活かしていけるように、全スタッフの力を合わせて頑張っていきましょう。
看護部長　堀　真寿子

日本医療機能評価の認定を受けて、理事長主催による全職員への慰労と感謝の祝賀会が出席者166名で2月24日に行われました。
宴もたけなわとなり、お互い一丸となって頑張ったプロセスを語り合う光景は、誇らしく思えました。入職者も増え、4年後の更新に向け更なるソフト面の充実のために、各職種が個々に質の高い専門性を出し合い、チームの連携を円滑にし、迅速な看護サービスが提供できる人材育成に努めたいと思います。
管理部長　江上幸子

ゆうじんかい

行・事・紹・介

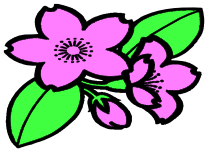
ミニバレーボール大会

2月15日　病院5階の多目的ホールにおいて、雄仁会（病院・岡の苑）の職員を対象とした「ミニバレーボール大会」が開催された。各部署に割り当てられた2日間の夜間練習。その成果を発揮しようと8チームの選手たちとその応援者が集う。院長先生の挨拶、3病棟の渡辺和俊Nsによる選手宣誓に引き続き熱戦が開始された。

コートの中では、選手が真剣な表情でボールを最後まで追いかけ、応援者による拍手や歓声が飛び交い、熱い戦いの中にも和やかで楽しい時間を持つことができた。
ただ、「トーナメント戦であるだけに、一回戦で敗退すると次からの試合にでられない」「女性スタッフだけの部署にとっては、男性スタッフの多い部署に力負けする」などの課題は残ったが、①職員間の交流と親睦を図る。②気分転換を図る…といった当初の目的達成はできた。
次回も、多くの職員の声を聞きながらよりよい職員のイベント行事を開催したいものだと思っています。
皆さんお疲れさまでした。

作業療法士　　高木　範雄

パソコン教室



2月より、職員対象に「出張パソコン教室」を行っています。
各部署の希望者が業務終了後、荻町でパソコン教室をされている白石　稔さんの指導のもと業務に必要なパソコンの知識、技術習得に向け頑張っています。
回を重ねる毎に色々と技術が身に付くようで、皆さん楽しく学ばれています。

平成18年2月16日
今回初めて午後のイベントとして、道の駅竹田“いちご農園”へ出かけました。
新鮮な取りたての苺をたくさん食べれることへの期待を胸にふくらませて、9名のメンバーさんが参加されました。
もぎ取りコースで「三粒だけは食べて良いです」との説明を受け1Kg入りの箱を各自もらってハウスの中に入りました。ハウス内は20℃前後のポカポカ陽気、一面の白い花の中の赤い苺が重そうに垂れ下がっている中から大粒をねらって、皆さん一生懸命に取られており、あっという間に一杯になり大満足のようでした。
『味も鮮度も抜群』でした。これを機に来年も是非企画したいと思います。

精神科デイケア師長　秋岡世治子

第2回精神科医療啓発セミナー開催

平成18年3月8日当院にて、今年度2回目の「医療啓発セミナー」を開催しました。
今回は、当院の江上幸子管理部長を講師に、精神科看護の立場から、精神障害を持つ方との付き合い方・接し方について、意見交換を中心に講義を行いました。今回のセミナーには、医師会病院・大久保病院の職員の方や竹田市役所・福祉事務所・竹田保健所の保健師の方々のご参加があり、それぞれの立場から質問や日頃の悩みについての発言に対し、講師から自身の精神科訪問看護での経験を踏まえた回答や助言をするといった形で進行されました。参加者からの「今後もセミナーを続けて欲しい」といった声も頂き大変うれしく感じる一方で、参加者が発言し易い会場作りや事前準備についての反省も感じております。私達は、地域の様々な機関との連携を深める為に、今回の反省を踏まえ次回には、より一層充実したセミナーを目指したいと考えておりますので、よろしくお願いします。

地域連携室長　後藤奈穂

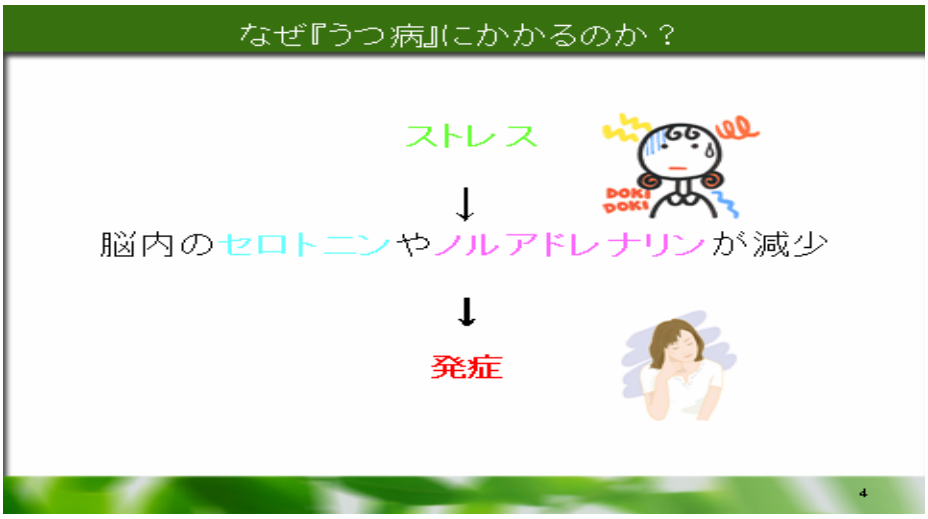
うつ病を正しく理解するために　第2回

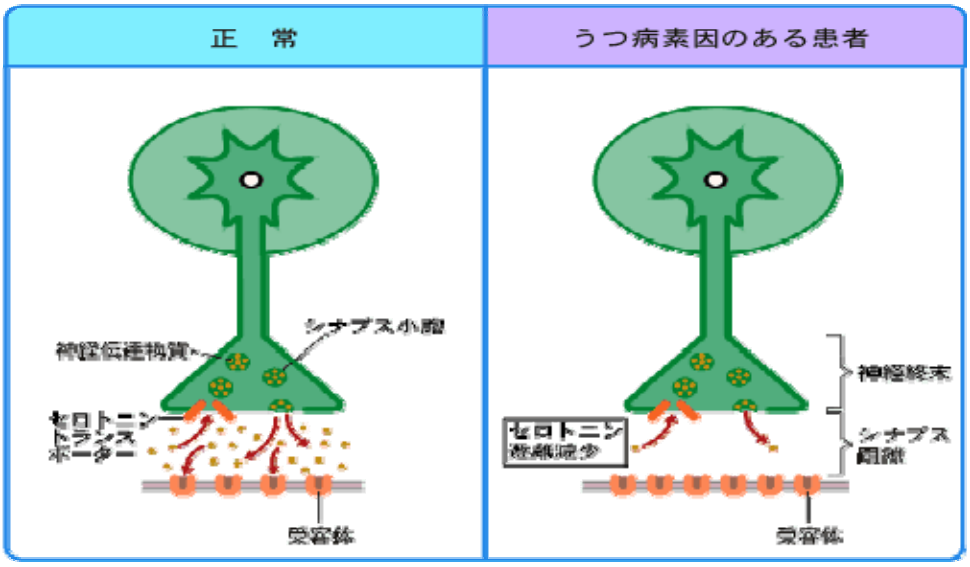
当院副院長甲斐清隆医師による『うつ病を正しく理解するために』と題しての連載第2回目です。
『うつ病』は最近よくTVや新聞報道でも取り上げられている、とても身近な心の病です。

今回はうつ病発症のメカニズムについて説明したいと思います。
何故ひとはうつ病にかかるのでしょうか？

人間の気分は脳が司っています。人の心は胸の中ではなく、実は脳にあるわけですが、現在うつ病は、その脳内の働きが変化するために生じるという考え方が一般的です。

人間の脳内には、神経伝達物質という化学物質が何種類も存在していて、それぞれが違う種類の情報を運ぶ役目を担っています。その神経伝達物質の中にセロトニンとノルアドレナリンというものがあります。セロトニンには不安を抑制する作用、ノルアドレナリンには意欲を亢進させる作用があるとされていますが、人間は精神的ストレスがきっかけとなって、神経伝達システムに異常が生じ、脳内におけるセロトニンやノルアドレナリンといった神経伝達物質の量が減ってしまうことにより、うつ病の様々な症状が出現するというのが現在最も有力な仮説です。





栄養室より

疲れ取り高血圧防ぐ 【ながいも】

管理栄養士　佐藤　桂子

長いもは、イモ類の中でもでんぷんの消化吸収が良く、生で食べられるのが大きな特徴。 独特のぬるぬるした粘りが、腸の動きを整え消化を助ける。
食物繊維やミネラルのカリウムも豊富で，高血圧の予防やダイエット効果も期待できる。

ぬるぬるが粘膜保護
　ながいもの主成分は、でんぷんと糖たんぱく質が結びついたもの。
ぬるぬるした成分はムチンと呼ばれる糖たんぱく質の一種。
体内の粘膜を保護する役目があるので、胃潰瘍や胃炎の予防が期待できる。
又、肝機能を高める役割もあり、疲労回復などの効果もある。

その他の効果として
でんぷんの分解促す。
ストレス解消にも
ビタミンC丸ごと

塩分を排出する効果
豊富な食物繊維

健やかレシピ

ながいもとひき肉の落とし揚げ
　材料と分量
　・ながいも　300g　・合びき　200g　・醤油　大1
　・卵　1個　・ピザ用チーズ　100g　・オリーブオイル　大1
　・ケチャップ　好みで　・ほうれん草、コーン　適宜

作り方
　1、ビニール袋に合びきを入れて、醤油をもみこむ。 卵を入れて、さらによくまぜる。
　2、ながいもはピーラで皮をむき、ビニール袋にいれる。
　3、袋の上から、麺棒，又はラップの芯でたたいて、ながいもをつぶす。
　4、ピザ用チーズも入れて、よく混ぜる。
　5、袋の口を縛ったら、袋の角をはさみで切る。
　6、フライパンにオリーブオイルを入れ熱くし、5を食べやすい大きさに絞り出す。
　7、両面が焼けたら好みでケチャップをかけて、出来上がり。
　8、彩りにほうれん草とコーンのバター炒めを添える。
・・・・葱を入れて、お好み焼き風に、かつお節と醤油で食べても美味しいです。

部署訪問（外来部門）

雄仁会の各部署を紹介いたします

外来看護師
藤田明美

外来看護師長　上野照美

加藤病院の外来では、様々な方法で患者様が「通院の継続」を行えるように援助しています。眠れなくなったという患者様から、日常生活が営めなくなってしまった患者様、外来のみですが内科的疾患の患者様、皮膚科的疾患の患者様まで幅広い対象患者様の受け入れを行っています。
また、通院中の患者様やご家族の方々との面接・相談・電話相談などの看護を提供しています。加藤病院の医療チームの一員として患者様やご家族の方々と入院中から係わり在宅療養にスムーズに移行できるような看護を提供していきたいと思います。

リハビリ一口メモ

岡の苑では昨年９月から介護予防事業として転倒予防教室を開催しています。
今回、教室で行っている体操から※足趾（そくし）の運動を2つ紹介します。
足趾の運動では、※足底の筋を刺激します。立位や歩行時には足底・足部からの刺激は脳が身体の位置を確認するため必要な情報の一つとなります。整形外科や神経系の疾患においても歩行練習などの前に足底からの感覚入力を増やすため足の指を動かしたりと、足底を意識した運動療法がよく用いられています。
※ 足趾（そくし）～足の指、足底（そくてい）～足の裏

体操を始める前に
まず椅子に腰掛け、裸足になります。

1，足の指ジャンケン

グー

足の指を全て曲げます

チョキ

親指を立てます。

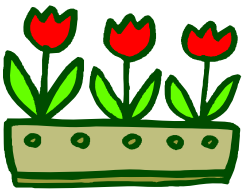
パー

それぞれ指の間が開く様に指を開きます。

これら運動はそれぞれ5回を目安におこなってください。

2．タオルギャザー

方法；タオルを１枚床に敷きます。足を置き、踵は床に着けたまま足の指だけでタオルを自身の方へたぐり寄せます。この運動は5～10回を目安におこなってください。



注意点；足部は日頃からストレスの多い部分でもあります。体操を行う際はゆっくり行い、運動している部位が温まるまでは急な動きは避けて下さい。回数を増やす場合は5回×２セット、5回×３セットなどとし、一度に数十回も繰り返す必要はありません。

岡の苑　理学療法士　玉田　英寛

地域連携室より

最近このような症状でお悩みではないですか？

記憶があやふや

・同じことを言ったり聞いたりする。
・人と会う約束やその日時を忘れる。
・最近の出来事が思い出せない。
・大切な物をなくしたり、置き忘れたりする。
・水道やガス栓の締め忘れが目立つようになった。
・ものの名前が出てこなくなった。

いま何時？　ここはどこ？

・時間や場所の間隔が不確かになった。
・慣れているところで道に迷った。

どうもやる気が…

・好きだったことに対して興味・関心がなくなった。
・服装がだらしなくなった。
・最近の出来事が思い出せない。
・日課をしなくなった。
・身だしなみに気をかけなくなった。

もの忘れ健康相談にくると

1. 面談

本人とご家族に詳しい話を伺います

2. 検査

・認知機能検査画像検査・CT検査
・その他の検査
（脳波・心電図・血液検査・血圧測定）

☆☆☆　**相談窓口**　☆☆☆

相談は、地域連携室がお受け致します。

電話　0974－63－2338

地域連携室室長　保健師　後藤（ごとう）
副室長　精神保健福祉士　計野（はかりの）

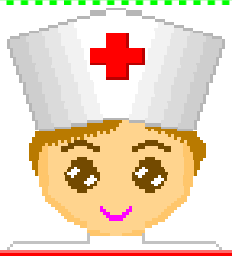
編　集　後　記

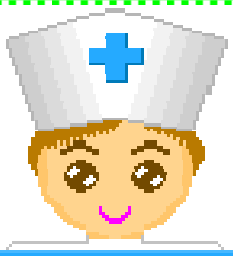
朝・晩、急に冷え込んだりすることもありますが、季節は春本番を迎えようとしています。桜が咲き誇る時期に医療法人　雄仁会にも多くの新入社員が入ってきました。初心を忘れることなく、広報誌を今年も作っていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

広報委員長　岑　浩

ご　案　内

ACCESS





加藤病院

診療科目

- ◇心療内科
  （ストレス病・うつ病・不眠症）
- ◇精神科
- ◇内科
- ◇皮膚科（火曜日　午後3時～）
- ◇もの忘れに関する健康相談

診療時間　午前9時～午後5時
（日曜日・祝日は休診）
面会時間　午前9時～午後8時

岡の苑

介護老人保健施設

- ◇通所リハビリテーション
- ◇入所・短期入所
- ◇認知症専門病棟
- ◇訪問介護ステーション
- ◇訪問リハビリテーション
- ◇指定居宅介護支援事業所

通所時間　午前9時40分～午後3時30分
（日曜日は休み）
面会時間　午前8時～午後7時

発行元
医療法人　雄仁会
〒878－0013
大分県竹田市大字竹田１８５５
☎　　０９７４－６３－２３３８
ＦＡＸ　０９７４－６３－２３３９

メールアドレス
yuujinkai@lime.ocn.ne.jp
ホームページアドレス
http://www16.ocn.ne.jp/~yuujin/